公開講座報告

# 若葉区民まつり協賛事業「ヒューマンヘルスケアのイノベーター　烈女フローレンス・ナイチンゲール」

加納佳代子*

本講座では、優れた情報発信者であり、英国の健康政策を変えていった革新者としてのフローレンス・ナイチンゲールについて説明し、その生涯を創作講談で語った。これを踏まえ、これからの地域包括ケアを支え、未来を切り開く逞しい看護師を養成していくことの重要性を述べた。

**キーワード**：ヒューマンヘルスケア、イノベーター、烈女、フローレンス・ナイチンゲール

# Report: Extension Lecture "The Innovator of Human Health Care, Florence Nightingale or a Strong-minded Scientist"

Kayoko KANOU*

In this lecture the speaker addressed the significance of Florence Nightingale's accomplishments as a nurse by addressing her initiatives in innovating information sciences related with health and nursing services and policy renewal. Based on these perspectives the speaker pointed out the significance of developing nurses of next generation who were competent in fostering community-based inclusive health care systems.

**Keywords**: human health care, innovator, strong-minded woman, Florence Nightingale

*（東京情報大学　看護学部設置準備委員）神奈川県立保健福祉大学　保健福祉学部　看護学科
Kanagawa University of Human Services, Faculty of Health & Service, School of Nursing

2016年１月５日受理

本報告は平成27年11月１日（日曜日）13時～14時30分、東京情報大学４号館メディア・ホールにおいて実施された公開講座「ヒューマンヘルスケアの革新者！　烈女　フローレンス・ナイチンゲール」の概要である。この公開講座は若葉区民祭り協賛事業として千葉市生涯学習センターと東京情報大学が共催して行った。

本講座では、優れた情報発信者であり、英国の健康政策を変えていった革新者としてのフローレンス・ナイチンゲールについて説明し、その生涯を創作講談で語った。これを踏まえ、これからの地域包括ケアを支え、未来を切り開く逞しい看護師を養成していくことの重要性を述べた。当日は、100名を超す近隣住民が参加し、講演後には本学における看護学部設置構想に対して期待を寄せる意見交換が交わされた。

## １．間違って伝わっていった「ナイチンゲール像」

フローレンス・ナイチンゲールの名前は世界中で知られているが、その本当の姿が伝わっているわけではない。この講座のポスターには天使のイラストが二つ入っているが、看護師というと「白衣の天使」とステレオタイプに扱われることが多い。ナイチンゲールは「天使」といわれることを嫌い、「クリミアの天使」と英国中で騒がれた時にはこういったそうである。

―私は天使ではない。もし天使だというなら、その天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために戦う者のこと―

日本で初めての臨床指導者は、ナイチンゲールが作ったセント・トーマス病院付属看護学校１回生が、スコットランドに創設したエジンバラ王立診療所付属看護学校の１回生、アグネス・ビッチであった。日本は近代看護をすぐに取り入れたにもかかわらず、戦争の時代が続き、ナイチンゲールの姿は修身の教科書などに「献身」としてだけ取りあげられていき、ナイチンゲールの果たした真の役割を十分に伝えることなく今日に至った。（ちなみに「ナイチンゲール誓詞」と言われているのはナイチンゲールの言葉ではない。）

マルクスやエンゲルスと同時代に生まれ、産業革命の発展が生み出した負の部分に注目し、常に科学的な手法でデータを集め、必要な情報へ変えて示し、地道な努力をしていった彼女の姿勢は次の言葉に表れている。

―価値ある事業は、ささやかで人知れぬ出発、地道な労苦、少しずつ向上しようとする努力といった風土のうちで、真に発展し、開花する―

## ２．ナイチンゲールの表した「病気」「健康」「看護」「管理」

ナイチンゲールは、クリミア戦争から帰還後40年にわたって、ベッドの車いすの生活の中で莫大な量の報告書や200の著作、政府高官や女王陛下への手紙12,000通を書いたといわれる。実際の看護に携わったのはたった３年にもかかわらず、看護独自の活動とは何かを常に示していった。39歳の時に書いた「看護覚書」（Notes of Nursing）は、「看護師向け」「簡略版」「家庭版」と３つの形で出版されたが、「家庭版」は衛生思想と看護活動を家庭に普及させるために執筆され、当時英国のどの家庭にも置かれていたといわれている。

病気についての捉え方は、なにか悪いものが憑りついているかのような考え方を排し、自然治癒力が働いている状態であることを繰り返し説いている。最初の「看護覚え書き」（1859年，39歳）ではこう述べている。

―病気とは何か？病気は、健康を妨げている条件を除去しようとする自然の働きである。それは、癒そうとする自然の営みである。我々はその自然の営みを援助しなければならない―

―すべての病気は、その経過のどの時期をとっても、程度の差こそあれ、その性質は回復過程であって必ずしも苦痛を伴うものではない―

そして「看護婦の訓練と病人の看護」（1882年，62歳）でもこう述べている。

―病気や疾病とは、健康を阻害してきたいろいろな条件からくる結果や影響を取り除こうとする自然の働きの過程である。癒そうとしているのは、自然であり、私たちは自然の働きを助けなければならない―

さらに「病人の看護と健康を守る看護」（1893年，73歳）でもこう述べている。

―健康とは何か？健康とは良い状態をさすだけでなく、我々がもてる力を十分に活用できている状態をいう―

医師の働きが病気を治すものであるのに対して、看護の働きは、患者の自然治癒力が最も働く環境つくりであり、看護するもの自身がその環境であると何度も繰り返し伝えている。

また、「看護婦と見習い生への書簡」の中では、優れた管理の在り方、管理者の在り方を次のような言葉で示している。

―ひとつの組織体にとって最も肝心なことは、その中の誰もが他者の仕事を妨げないで、他人の仕事を助けながら自己の仕事を遂行することなのです―

―他人を統率するには、まず自分自身を統率すること、これが第１の条件であることは言うまでもありません。自分の面倒も見られないで、他人の世話などできるはずがありません。第２の条件は、自分を何かに「見せかけよう」とあがいたりしないで、〈ありたい姿〉に〈ある〉ように努めることでしょう。―

これらの言葉は、現代にも通じる職業人としての在り方を示しているといえる。

## ３．革新者かつ情報発信者としてのナイチンゲール

ナイチンゲールの業績は多大にあるが、特に今日的な意味で重要な活動が２つある。一つは社会を改革していく革新者（イノベーター）、もう一つはデータを情報として発信した情報発信者としての活動である。

裕福な家庭に育ったナイチンゲールが家族の反対を押し切って33歳で初めて働いたのが、経営破綻に瀕した慈善団体が経営するハーレイ病院で、指導監督として経営の立て直しを行った（1853年～1854年）。受け入れ患者要件を取り払い、職員の仕事の能率をあげるために、食器運搬エレベーター、全病棟給湯、患者呼出信号灯を初めてとりいれた。患者呼出信号灯は、現在のナースコールの原型である。

クリミア戦争勃発に伴い、38人の看護団を率いて乗り込んだトルコ領内スクタリ兵舎病院時代は、兵士のために軍の幹部と戦い食糧調達システムを改善し、私財を投じ病院を直した。その後も陸軍病院の環境改善、効率的運営、病院経営の原価計算方式の変革、病院に関する記録保全に関する改革、貧民院の改革、インドの衛生基準作成など公衆衛生に関する活動など多岐にわたる。ナイチンゲールの働きは、これまで誰もが行ったことのない方法を提案していく環境改善の社会起業家であり、変革者（イノベーター）であった。

また、統計を駆使したデータを情報として可視化した「鶏頭図」は、情報発信者としてのナイチンゲールの業績を示している。クリミア戦争で死亡した兵士たちは、負傷ではなく疾病によって死亡しており、劣悪な病院環境がその原因であると端的に示し訴えた。

この二つの意味で、ナイチンゲールは信念を貫き生きた「烈女」といえるだろう。

## ４．これからの時代を切り拓く逞しい看護師の養成

革新者（イノベーター）の条件は、「ワカモノ」「ヨソモノ」「バカモノ」と言われている（真壁昭夫，2012）。「バカモノ」というのは、世間が何と言おうが一途に打ち込む者という意味である。ナイチンゲールも、当時の英国政治を動かす貴族や政治家たちから見ると「ワカモノ」「ヨソモノ」「バカモノ」であった。ナイチンゲールは、「私は、全ての病院がなくなるこ

とを願っています。」とまで言ったそうである。150年たった現在、これからの地域包括ケアを発展させていく中では、地域社会を変えて健康寿命を延ばし、その人らしい生を全うするために看護師が本来の仕事をしていくことがますます期待されると考える。

私の持論は、「お互いにもてる力を引き出しあう」「お互いに自分で決める機会を大切にしあう」「お互いに支えあう」といったケアの関係を作り上げていくことである。もう一つ重要なことが「利用者に教わる」という姿勢である。東京農業大学の初代学長横井時敬の「稲のことは稲に聞け」に通ずる実学を重んじる科学者のスタンスであり、これからの地域包括ケアを住民とともに作り上げていく時の基本姿勢であろう。

東京情報大学では、地域包括ケアに貢献する逞しい看護師を養成するために、看護学部設置構想が進められ、平成29年４月開学に向けて準備を進めている。東京情報大学看護学部の教育理念は「自律」と「共創」である。この教育理念を実現しながら、これからの地域包括ケアを学び、こころをみつめていのちにつなぐマインドとスキルを備えた逞しい看護師を育成していくことが使命であろう。東京情報大学が地域住民の方々のお力を借り、新しい価値を「共創」し、未来を作る大学として育っていくことを願っている。

なお、本稿では創作講談の要約は省略する。高座から講談看護師・加納塩梅として日本の話芸である講談調の語りで創作講談「烈女　フローレンス・ナイチンゲール」の口演があったことを報告しておく。

**【参考文献】**

真壁昭夫（2012）．バカ者、よそ者　イノベーションは彼らから始まる！．PHP研究所.
都留伸子（1991）．看護理論家とその業績．医学書院.
薄井坦子編（1995）．ナイチンゲール言葉集　看護への遺産．現代社.
和住淑子（2014）．会長講演　F・Nightingaleにみる実践と研究の往復モデル．千葉看護研究学会誌，19(2)．83-84.

講談師・加納塩梅として口演中の筆者